

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム香寿		
所在地	磐田市平間1259-1		
自己評価作成日	平成27年9月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=227">x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=227</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成27年9月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今までの生活やその人らしさを大事にし、出来るだけ継続していけるようにする為に、使い慣れた馴染みのある物の中で生活していただきます。  
生活面でも自然な生活リズムを大切にし、起床時間、就寝時間、食事時間を決めずゆったりと一日を過ごしていただきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは磐田市でも市街地から離れた天竜川東側、竜洋町方面に抜ける262号沿いに所在します。近くは市役所支所をはじめ警察・消防分署、図書館支所などが有りますが、付近は田畑や住宅、工場が混在する新開地です。  
平成15年4月開設、間もなく11年目を迎える施設は日本のグループホーム制度創設のメンバーの一人でもある法人代表者の指導の下、「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を理念として今までと変わらない自然な生活を送っていただきたく、全職員が一人ひとりに寄り添い。その人なりの自己実現に向けての支援をする事に努めています。ホームでの生活の源は食にあることを理解し、食生活にも細心の注意を払っています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳のあるその人らしい穏やかな生活という理念を事業所に提示しているの、頭の片隅に置いて入居者さんと接するように心がけている。	全職員は法人が掲げる理念「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を遂行するために、事業所としての「関わりの7原則」を定め、ご利用者に寄り添いケアの実践をしています。その内容は認知症のご利用者を良く理解し尊厳を守り生活していただく行動指針でも有ります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時等、笑顔で挨拶をしている。自治会の行事などに参加し地域の方々とお付き合いを大切にしている	事業所が所属する平間地区の自治会をはじめ近隣の自治会との疎通は良く季節の行事等にご利用者と参加できる機会も多いようです。散歩道での住民の皆様との交流も日常的に行われています。	地域密着サービス事業所として、地域の一員として必要とされる活動、役割を自覚して担っていく必要があります。一助として地域と事業所との交流、イベントづくり、広報活動から積み上げていきましょう。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	磐田北高生の実習を受け入れている。散歩に出掛け地域の人と挨拶や会話をもつようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行政、包括支援センターご家族、職員が参加し意見交換、アドバイスをいただいている	運営推進会議は隔月、定期的開催され出席委員も適切で報告事項をはじめ議題も地域に密着した施設としての報告と方向性を問う内容になっています。玄関に置かれた意見箱は委員からの提案により設置されたとの事です。会議の内容は開催月にご家族へも送られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今現在磐田市役所にグループホーム香寿の入居状況報告書を、月末にFaxを報告を行っている。	市・担当者をはじめ行政とは窓口業務のほか関係部門との連携が円滑に保たれています。運営推進会議へも毎回出席していただけるので事業所の現況は瞬時に伝わり、最新情報の提供も得られる良い関係です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を心掛けケアをしている。門、玄関の施錠はしておらず日中は出入り自由になっている。身体拘束することなく、見守りや付添をしている。	身体拘束をしないケアの意義は、入社時の新任者研修で基本事項として学び、現任者研修でも、振り返りが行われています。法人の理念を遂行するための「関わりの7原則」を理解してご利用者一人ひとりに寄り添う介護を実践する事で効果を上げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時アザや傷がないか観察している。身体への虐待、言葉の虐待を含めしないようにしている。入居者さんに虐待しないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会があった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の職員がコミュニケーションをとり、意見、要望が言える関係作りをしている。ご家族の方からの要望はしっかりと受けとめ実践している。	ご家族からのご意見等を伺う係りとして3名の職員が配置され、ご来訪されたご家族に積極的に関わりご意見を賜うよう努めています。お電話などで伺ったご意見も含め連絡ノートにすべて記入され全職員が共有し、諸会議でも討議されますがご利用者のケアに関する内容が多いようです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱があり、責任者会議で話あっている。	ケアに関する問題は通常の仕事の流れで解決されますが、昨年リフォームを行った際の手摺りの設置に関しては、ケアにも有効な場所への設置意見、ご利用者が安全に移動し入浴ができ、且つ職員の負担軽減を図る為にリフト浴が採用された事など職員の意見が反映された結果です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人に合った役割を設けている。職場環境などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外部研修を行う機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分を信頼してもらえるように相手と向き合いコミュニケーションを取るようになっている。上司や職員同士で話し合い家族の方が安心していただける介護を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っている事、要望等聞き入れ、職員同士共有する。御家族の方が、安心して気軽に話をしていただけるように、笑顔で接し会話をするように心掛けをする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上司の指示に従う。会話の中で「その時」まず何が必要なのかを考えるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きな事や趣味を聞いたりして話をしている。入居者さん同士を平等に接してお互いを尊重する態度を職員が示す。出来る事は、一緒に行い「出来る事」はずっと継続して行えるような環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	呉かそ族の方がやつてあげたい事を理解し、ご家族も大切にしていこうとしている。御家族の方が楽しそうに、自由に話をしている姿をありのままに見ていただく。面会時や電話を頂いた時は定期的に様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんが職員を親しい友人だと思い話される時には、否定する事なく話しをするようにしている。本人に関係ある方や友人関係をあらかじめ御家族の方に聞き交流を支援する。御家族、友人達に来て頂いている。お孫さんの結婚式には職員と出席している。	ご家族のアンケートからも「面会のため訪問した際、職員の皆さんが気持ち良く迎えて下さりご利用者と楽しく時間が過ぎて嬉しい」「職員さんと買物等に行けるので本人は喜んでいるようだ」など多数のコメントが寄せられています。馴染みの人や場との関係継続の支援にほかなりません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している入居者さんに対し職員が中に入り、他入居者さんとの交流を持てるようにしている。入居者さんとの会話や行動を一緒にし、声かけをし孤立のない生活につとめる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	上司の指示を仰ぎ相談する。退去後は、お会いする機会はないが、お通夜には行かせていただくことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように、本人や他の職員とも話し合いながら情報をえている。個別のケア、食事の時間(夕食)を遅くしたり本人の希望に添えるようにしている。利用者さんの思いや暮らし方や意向の把握を務めている。	日頃、ご利用者一人ひとりに寄り添い支援するなかで新たな思いや意向を聞き出すことが出来た時には必ず連絡ノートに書き残し、ノートに記録されたご家族からのご意見や思いをも含め全職員で検討し関わり方を共有し支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活と変化がない様になる事は続けるように支援する。個々の方々の生活歴を理解し、本人とも話し合いながら情報をえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が、申し送りノートを確認し1人1人の現状把握している。日によって変わる体調の変化に目を向けその日の体調に合ったケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族、職員と意見を聞き介護計画を作成し、実践し本人が暮らしやすい環境作りをしている。	ご利用者の定期的な計画作成のほか、昨年末にはご家族全員に集まっていたいただき、各ご利用の現状を踏まえての意向調査を行いカンファレンスから得た職員意見も参考に介護計画の見直しを行うなど現状に即したケアの充実に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う事や、個々の様子の変化に気づき注意深く観察し、職員同士共有するようにしている。毎日の記録にその時あった事や入居者さんへ変わった事があったら記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員との話し合いを大切にし、柔軟な支援が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とコミュニケーションがとれるようにお祭りなどの行事に参加させてもらい理解していただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、かかりつけの医師が往診に來られ医療を受けられるようにしている。	ご利用者のお一人を除き、ホームに近い協力医が主治医です。往診していただけないので、職員による受診支援が行われています。医療環境を充実させ終末期の医療への体制をより整えるためにも、4月から緩和ケアの実績を持つ医院を協力医として迎える事になりご家族の了承も得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日、訪問看護師になにかあれば相談し、病院受診をしている。担当の職員が、看護師に情報、症状伝え、看護師の指示を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も体調の様子を気にかけて、退院後はしっかりとケアが出来るように情報を聞きのがさない努力をしている。入退院の際は、御家族と一緒に医師からの説明を聞く。入院中は、お見舞いに行き看護師等に情報を頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについて、御家族と話をしている。御家族から症状に合わせて確認書をとっている。御家族の気持ちを優先し、その気持ちに添った終末期の対応をするようにしている。	重度化や終末期に向けた支援については入居の時点で事業所として出来る事、出来ない事に関する詳細な説明がされますが、その段階に至った時点で、ご本人やご家族の思いの再確認を主治医の意見をも参考に話し合い、医療行為の伴う場合を除いて、訪問看護師の協力のもと看取るまでの支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成したものがあるが、いろんなケースに対応できるとは言えないので勉強して知識を学びたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、避難訓練を行っているが、実際におきた場合、しっかりと避難できるか自信がない。	防災訓練は消防署の協力で計画的に実施し災害時の避難訓練も随時行われ運営推進会議でも報告されています。津波時、ハザードマップ圏外とはゆえ、避難先の検証等、職員全員で取り組んでいます。備蓄は1ヵ月を目途に準備し、地域貢献も考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーを尊重して損ねない言葉かけや対応をしている。失禁され尿汚染のシーツ交換をした後のシーツ等は、洗濯物カゴに入れ運んでいる。トイレの声かけは耳元で声かけをするようにしている。	「一人ひとりの尊重とプライバシーの確保」の持つ意味は、全職員が理解しています。法人の理念に基づく関わりの原則を守り業務を遂行することでその成果は担保されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望で散歩の訴えがある時は出来る限り対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事は時間をずらし本人の希望に添っている事もある。職員の意見を押し付けないようにし、入居者さんの思いを伝えてもらえる関係作りを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んで着替えれる入居者さんには、洋服を選んでもらい着てもらおうようにしている。訪問美容院に来てもらい髪の毛を切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものがある入居者さんには、代替りの物を用意している。野菜の皮むきや食器拭きを一緒に行うようにしている。	メニューに基づく食材の購入は地域に根付いた大型スーパーのネットショップを活用、厨房は調理専門員によって賄われます。食事の準備、後片付けまで元気なご利用者の関わりが見られ、食事中はご利用者の会話の中から笑いも絶えません。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給、摂取量を記録に記入している。水分を摂れない方には好みの飲み物を用意し飲んでもらう。食事の摂れない入居者さんには、カロリーのある栄養食品を用意する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨きをできる入居者さんには職員が声かけし歯磨きをしてもらうようにしている。自分で歯磨きを行えない入居者さんには、職員が歯磨きを行う。歯がない入居者さんには、お茶等食後に飲んで頂くか口腔スポンジを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁をしないでトイレで排泄して頂けるように本人の様子を見て職員は声かけをトイレ誘導を行っている。	ご利用者各位の排泄記録により、排泄パターンは推察出来るので、日中は、適切な誘導により布パンツで生活される方が増えています。夜間も声掛けを怠ることなく快適に生活していただけるように情報の共有に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が無い入居者さんには牛乳を飲んでもらったり、ヨーグルトを食べてもらっている。お腹を腹部マッサージをするなど個々に応じた対応をしている。便秘の入居者さんには、医師からの処方による便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意志を優先し、入浴しようと思う声かけを心がけ楽しく入浴してもらえるように心がけている。一人一人のタイミングや希望に合わせて支援をしている。	リフト浴が可能になり、ご利用者全員が安全に湯槽に入ることが出来、喜ばれています。且つ職員の負担の軽減にもなりました。希望により毎日の入浴、夜間でも早めの時間の入浴は出来ます。回数が少なくとも3日に一度は入浴していただけるよう注意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人のその時々に応じて安心して気持ちよく休めるようにしている。時間を問わず、眠りたい時には眠ってもらったり、眠れるような雰囲気を作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の薬を把握し、医師より追加、中止の薬について申し送りノートや確認の為に写真を更新している。薬を把握し飲んでる薬によって変化が表われないかを記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の喜びや楽しみを理解し、職員同士で意見の交換が出来る様にしている。洗濯物をたたんでくれたり、食器を拭き等してくれたら必ず「ありがとう、助かります」と声かけに入居者さんは笑顔になってくれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物と一緒に掛、欲しい物があれば買っている。病院や買い物以外でもっと季節を感じられるような外出ができるようにしていきたい。	職員が日用品の購入や食材の買い足しに出掛ける時にはご利用者をお誘いし、ご利用者が目的を持った買い物を希望する時は個別に外出支援をしています。気候が良くなるので、今後は個別に外出支援の計画書を作り、ご家族のご意見を参考に支援する事も考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんと買い物に行くさいに本人にお金を持ってもらい、自分で支払をして頂く。支払時職員は見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とも相談し本人にとっていいやり方を話し合い、電話をかけたい時には手助けをするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を採り入れて居心地良く過ごせるように工夫をしている。光、温度は外を開けたり閉めたり細めに調整している。(エアコンの温度も細めに調整している。	ホーム1階の内部は2ユニットに分かれ、それぞれのリビングは広く明るく塵ひとつない清潔さの中に暖かみを感じさせます。超高齢化が進むご利用者の皆様が静かに穏やかに生活していただくには何の演出も必要としないようです。職員は一人ひとりに寄り添い生活・介助の支援をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんが、行きたい場所や、落ちついていられる場所で過ごしてもらい、仲のいい入居者さんと一緒にお話をしたりして過ごしてもらえる様に心掛けている。親しい人同士の共通点を作り、1人の方には声かけし苦痛な思いがない様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活してきたと同じような居室作りを工夫している。入居者さんに家で使用していた家具等を持ち運んで頂き入居前に暮らしていた部屋に家族と相談。	各居室ともご利用者の生活歴がお察し出来るような品々や衣類で飾り、お孫さんやご家族、ご自身の若い頃の写真等を置き、生活の場として、ご自分の居場所を確保されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来る事、分かる事がこれからも継続していけるような工夫を心がけている。トイレ洗面所等広い作りになっていて、車椅子も対応出来る広さになっている。		